



付録 2

プロジェクトに関わる共同研究者名（所属・役職・研究分担事項：在籍年度）

（◎：プロジェクトリーダー、○：コアメンバー）
※年度表記なしは2002～06年度（5年間）在籍メンバー

<事務局>

◎谷内茂雄（総合地球環境学研究所・助教授・全体総括）

◎和田英太郎（地球環境フロンティア研究センター生態系変動予測研究プログラム・ディレクター・流域診断指標の開発：2002～04年7月31日までプロジェクトリーダー）

北村文子（総合地球環境学研究所・事務補佐員・プロジェクト事務：2002～04年度）

塩野敬子（総合地球環境学研究所・事務補佐員・プロジェクト事務：2005年度）

川口洋美（総合地球環境学研究所・技術補佐員・プロジェクト事務：2002～03、06年度）

杉山智佳子（総合地球環境学研究所・事務補佐員・プロジェクト事務：2006年度）

（１）物質動態班

○陀安一郎（京大大学生態学研究センター・助教授・物質動態班総括）

○中野孝教（総合地球環境学研究所・教授・流域診断指標の開発：2003年度～）

井桁明文（総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員・流域診断指標の開発：2003年度～）

上田孝明（元京大大学生態学研究センター・水質試料サンプリング：2003年度～）

岡島俊哉（佐賀大学文化教育学部・助教授・水質分析：2005年度～）

清水 勇（京大大学生態学研究センター・教授・流域診断指標の開発：2003年度～）

杉本隆成（東海大学海洋学部海洋研究所教授および総合地球環境学研究所客員教授・淀川河口域の貧酸素水塊形成機構：2003年度～）

中村正久（滋賀大学環境総合研究センター・教授・ノン・ポイントソース・アドバイザー）

中本信忠（信州大学繊維学部・教授・水質アドバイザー）

兵藤不二夫（総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員・流域診断指標の開発）

藤巻怜路（京都大学農学研究科大学院生・技術補佐員・水質資料分析：2004年度）

細野高啓（学振特別研究員・流域診断指標の開発：2005年度～）

Narin Boontanon（タイ国マヒドン大学・流域診断指標の開発：2002～03年度）

松井 淳（奈良教育大学生物学教室・教授・流域診断指標の開発）

山田佳裕（香川大学農学部・助教授・農業排水を中心とした流域診断手法の開発）

和田英太郎（地球環境フロンティア研究センター生態系変動予測研究プログラム・ディレクター・流域診断指標の開発）

（２）生態系班

○谷内茂雄（総合地球環境学研究所・助教授・生態系班総括）

○藤田 昇（京大大学生態学研究センター・助手・生物多様性と人間活動の関係の解析：2002～03年度までコアメンバー）

石井励一郎（地球環境フロンティア研究センター生態系変動予測研究プログラム・研究員・生態系モデリングおよび調査：2004年度～）

岩田智也（山梨大学工学部循環システム工学科・助手・流域生態系アドバイザー：2003年度～）

丑丸敦史（神戸大学発達科学部・助教授・生態系調査アドバイザー：2003年度～）

奥田 昇（京大大学生態学研究センター・助教授・生態系調査アドバイザー：2006年度）

加藤元海（愛媛大学沿岸環境科学研究センター・COE研究員・生態系モデリング：2003年度～）

金尾滋史（滋賀県立大学大学院環境科学研究科・大学院生・生態系調査：2003年度～）

川端善一郎（総合地球環境学研究所・教授・生態系調査アドバイザー：2005年度～）

高津文人（京大大学生態学研究センター・研究員・生態系調査：2003～04年度）

神松幸弘（総合地球環境学研究所研究推進センター・助手・生態系調査：2003年度～）

陀安一郎（京大大学生態学研究センター・助教授・物質動態—生態系モデリング連携）

中島久男（立命館大学理工学部・教授・生態系モデリング：2005年度～）

永田 俊（京都大学生態学研究センター・教授・水域生態系アドバイザー：2003年度～）
成田哲也（元京都大学生態学研究センター・生態系調査：2003年度～）
丸山 敦（龍谷大学理工学部・助手・生態系調査：2003年度～）
三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館・研究員・GISを用いた地域生態系保全アドバイザー）
宮坂 仁（愛媛大学沿岸環境科学研究センター・COE研究員・生態系調査：2002～03年度）
山村則男（京都大学生態学研究センター・教授・生態系モデリングおよびデータベース：2003年度～）

（３）社会文化システム班

○脇田健一（龍谷大学社会学部・教授・社会・文化システム班総括）
○田中拓弥（総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員・社会文化調査）
今田美穂（国立環境研究所環境リスク研究センター・アシスタントスタッフ・社会文化調査：2003年度～）
大野智彦（京都大学大学院地球環境学舎・大学院生・社会文化調査：2003年度～）
柿澤宏昭（北海道大学大学院農学研究科・教授・流域管理アドバイザー）
柏尾珠紀（総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員・農業経済分析：2004年度～）
加藤潤三（大阪国際大学人間科学部・講師・社会心理学調査：2003年度～）
坂上雅治（日本福祉大学情報社会科学部・助教授・環境経済学調査：2003年度～）
田村典江（アミタ持続可能経済研究所・研究員・社会文化調査：2004年度～）
野波 寛（関西学院大学社会学部・助教授・社会心理学調査：2004年度～）
広瀬幸雄（名古屋大学環境学研究科・教授・社会心理学アドバイザー：2003年度～）
三俣 学（兵庫県立大学経済学部・講師・社会文化調査：2003年度～）

（４）流域情報モデリング班

○谷内茂雄（総合地球環境学研究所・助教授・流域情報モデリング班総括）
○原 雄一（京都学園大学バイオ環境学部・教授・流域情報収集および技術アドバイザー）
上田篤史（元総合地球環境学研究所・技術補佐員・GISによる情報統合技術開発：2002年度～04年度）
伊藤憲三（岩手県立大学ソフトウェア情報学部・教授・GISモデリングアドバイザー：2005年度～）
内藤正明（NPO法人循環共生社会システム研究所・代表理事・総合アドバイザー）
プリマ オキ デイッキ（岩手県立大学ソフトウェア情報学部・講師・GISモデリング：2005年度～）

（５）外国人招聘研究員

Sergei KIYASHKO（ロシア科学アカデミー極東支部海洋生態学研究所・主任研究員：2002年10月～03年3月）
Tamara KHANTASHKEEVA（ロシア科学アカデミー地理学研究所・上級研究員：2006年5月～12月）

研究成果

共編著・論文など

1) 日本語

井桁明文・山田佳裕・陀安一郎・和田英太郎

2005 「水田地帯における小水系の水質形成特性－琵琶湖流域の蛇砂川における例－」『第70回日本陸水学会講演要旨集』：204

大野智彦

2004 「異分野交流を実践する－なぜ、異分野交流か？」『水文・水資源学会誌』17(6)：678

2005 「『関係住民意見の反映』の実施過程－河川政策における地方自治体の役割－」京都大学大学院地球環境学舎修士論文

2005 「河川政策における『参加の制度化』とその課題」『環境情報科学論文集』19：247-252

加藤潤三・野波寛・谷内茂雄・脇田健一・田中拓弥

2006 「環境配慮的農作業の普及に向けたアクション・リサーチ：合理的・情動的説得が農家の濁水削減行動・態度に及ぼす影響」『日本社会心理学会第47回大会発表論文集』：776-777

嶋田大作・大野智彦・三俣学

2006 「コモンズ研究における社会関係資本の位置づけと展望－その定義と分類を巡って」『財政と公共政策』28(2)：51-56

杉本隆成・今本博建・山下陸男

2004 「流域・河口海岸系における物質輸送と環境・防災」『月刊海洋』36(3)：177-180

田中拓弥編

2002 「水系研究の視点－琵琶湖・淀川水系におけるケーススタディー」京大大学生態学研究センター『日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業 複合領域6：「アジア地域の環境保全」和田プロジェクト』：217

田中拓弥・井桁明文・山田佳裕・谷内茂雄

2005 「地域住民がおこなえる簡易な観測で農業濁水の影響評価はどこまで可能か？－水田地帯における小河川の水質管理に向けた簡易観測の可能性－」『第70回日本陸水学会講演要旨集』：193

陀安一郎

2005 「生態圏の環境診断－安定同位体アプローチ」(特集：流域生態系の保全・修復戦略－生態学的ツールとその適用)『日本生態学会誌』55：p183-187

永田俊・谷内茂雄

2005 「流域生態系の保全・修復戦略－生態学的ツールとその適用」『日本生態学会誌』55：175-176

中野孝教

2006 「土壌環境研究におけるSr同位体とPb同位体」日本化学会編『実験化学講座20-2環境科学』：372-378

野波寛・加藤潤三

2006 「集団的環境配慮行動としての水路清掃：琵琶湖の保全かイベントか？」『日本社会心理学会第47回大会発表論文集』：46-47

野波寛・加藤潤三

2006 「琵琶湖に対する沿岸住民の環境配慮行動：集団行動と個人行動の規定因」『日本心理学会第70回大会発表論文集』：1396

原雄一・谷内茂雄・脇田健一・田中拓弥・和田英太郎

2002 「流域管理のための総合調査マニュアルの作成」土木学会編『第10回地球環境シンポジウム講演論文集』：149-154

原雄一・上田篤史・藤井里美

2003 「流域単位での流域診断手法の開発に向けての考察」『地理情報システム学会講演論文集』第12巻：303-306

原雄一・佐藤祐一・加藤健一郎

2005 「ARCGISによる流域診断のためのバランスツールボックスの試作」『地理情報システム学会講演論文集』第14巻：245-248

三俣学・嶋田大作・大野智彦

2006 「資源管理問題へのコモンズ論、ガバナンス論、社会関係資本論からの接近」『商大論集』57(3)：19-62

谷内茂雄・脇田健一・原雄一・田中拓弥

2002 「水循環と流域圏—流域の水環境の総合的な診断法—」環境情報科学センター『環境情報科学』31巻4号：17-23

谷内茂雄

2005 「流域管理モデルにおける新しい視点—統合化に向けて」『日本生態学会誌』55：176-181

谷内茂雄・田中拓弥・中野孝教・陀安一郎・脇田健一・原雄一・和田英太郎

2006 「総合地球環境学研究所（地球研）の琵琶湖—淀川水系への取り組み」『社団法人環境科学会2006年会プログラム』：160-161

山田佳裕

2004 「水系生態系における環境評価指標としての安定同位体比」『水資源研究センター研究報告』24：57-60

2005 「安定同位体比を指標とした河川生態系の浄化機能の解析及びその評価法の確立」『河川整備基金助成事業研究成果報告書』：1-21

山田佳裕・小笠原貴子・井桁明丈・中島沙知・谷内茂雄

2005 「琵琶湖集水域において懸濁物が流入河川に与える影響—主に農業河川に注目して—」『第70回日本陸水学会講演要旨集』：78

山田佳裕・中島沙知

2005 「ダム湖における富栄養化の評価のための新しい手法」『水源地研究会議研究成果報告書』：1-101

山田佳裕・井桁明丈・中島沙知・三戸勇吾・小笠原貴子・和田彩香・大野智彦・上田篤史・兵藤不二夫

今田美穂・谷内茂雄・陀安一郎・福原昭一・田中拓弥・和田英太郎

2006 「しろかき期の強制落水による懸濁物、窒素とリンの流出—圃場における流出実験」『陸水学雑誌』67(2)：105-112

山田佳裕・井桁明丈・三戸勇吾・小笠原貴子・中島沙知・谷内茂雄・和田英太郎

2006 「琵琶湖流域における河川堆積物中の酸化還元環境」『第71回日本陸水学会講演要旨集』：234

脇田健一

2004 「地域づくりと濁水問題—階層間コミュニケーションをめざして—」『第66回全国都市問題会議 環境と共生するまちづくり—多様な主体の協働による美しい都市をめざして—』（全国市長会）：187-195

2005 「琵琶湖・農業濁水問題と流域管理—「階層化された流域管理」と公共圏としての流域の創出」『東北社会学会 社会学年報』第34号：77-97

2002 「流域管理のための総合調査マニュアル」京都大学生態学研究センター『日本学術振興会未来開拓
学術研究推進事業複合領域6：「アジア地域の環境保全」和田プロジェクト』：384

和田英太郎

2002 環境学入門3「地球生態学」岩波書店：171

2003 「地球生態系からみた生物と環境－酸化還元境界層を中心として」『第17回「大学と科学」公開シン
ポジウム講演収録集生物多様性の世界』：139-147

2004 「自然界の物質循環を探る－安定同位体が語る生物と地球環境－」現代化学 396：14-21

2005 「流域圏をどのように診るか－物質循環の立場から」ワークショップ実行委員会編『自然と共生し
た流域圏・都市の再生』山海堂：177-186

2005 「琵琶湖・淀川水系の診断法」石川幹子・岸 由二・吉川勝秀編『流域プランニングの時代』
技報堂出版：149-172

2005 「生物地球化学とはどんな学問か」南川雅男・吉岡崇仁共編『地球化学講座5 生物地球化学』培風
館：1-31

2005 「生物地球化学の今後にむけて」南川雅男・吉岡崇仁共編『地球化学講座5、生物地球化学』培風
館：201-208

2006 「生態系の物質動態プロセスとその時空間スケール」武田博清・占部城太郎編『陸域生態系の科学－
地球環境と生態系－』共立出版：254-267

2006 「特集：地球生態系の明日を考える－地球の未来をもとめて－地球生態系研究の現状とこれから」
『FINIPED (Foundation for International Information Processing Education) 情報処理教育研修助成財
団機関誌』9月号 No.12：3-12

和田英太郎・陀安一郎・兵藤不二夫

2003 「物質循環と水資源－水系を中心として－」『エネルギー・資源』24巻1号：27-33

和田英太郎・吉川知里

2005 「生物界に於ける窒素・炭素同位体比のゆらぎに関する研究_その40年史」『月刊海洋号外』40：
234-249

2) 英語

Hyodo, F., Tayasu, I. and Wada, E. 2006 “Estimation of the longevity of C in terrestrial detrital food web
using radiocarbon (14C) : how old are diets in termites?” *Functional Ecology*, 20:385-393.

Kiyashiko S.I., Imbs A.B., Narita, T., Svetashev V.I. and Wada, E. 2004 “Fatty acid composition of aquatic
insect larvae, *Stictochironomus Piculus* (Diptera: Chironomidae): evidence of feeding upon methan-
otrophic bacteria” *Comparative Biochemistry and Physiology – Part B* 139: 705-771.

Kohzu, A., Kato, C., Iwata, T., Kishi, D., Murakami, M., Nakano, S. and Wada, E. 2004 “Stream food web
fueled by methane-derived carbon” *Aquat. Microb. Ecol.*, 36: 189-194.

Kohyama, T., Urabe, J., Hikosaka, K., Shibata, H., Yoshioka, T., Konohira, E., Murase, J. and Wada, E. 2006
“Terrestrial ecosystems in monsoon Asia : scaling up from shoot module to watershed” *Terrestrial
Ecosystems in a Changing World*, :285-296.

Kohzu, A., Tayasu, I., Maruyama, A., Kohmatsu, Y., Hyodo, F., Onoda, Y., Igeta, A., Matsui, K., Nakano, T.,
Wada, E., Takemon, Y. and Nagata, T. 2004 “Nitrogen isotope ratios of riverine organisms and organ-
ic pools -New indicators of human impacts on river ecosystems-” *The Second Annual Joint Seminar
between Korea and Japan on Ecology and Civil Engineering*, : 81-84.

Miyasaka, H., Dzyuba Y. V., Kato, G. M., Ito, S., Kohzu, A., Anoshko, P. N., Khanayev, I.V., Shubenkov, S. G.,
Melnik, N.G., Timoshkin, O.A. and Wada, E. 2006 “Feeding ecology of two planktonic sculpins,
Comephorus baicalensis and *Comephorus dybowskii* (Comephoridae), in Lake Baikal” *Ichthyological
Research*.

Nagata, T., Kohzu, A., Yoshimizu, C. and Tayasu, I. 2004 “Integrated assessment of watershed ecosystems
by the use of stable isotope ratios of water, nutrients and organisms” *The Second Annual Joint*

- Nakano, T., Nishikawa, M., Mori, I., Shin, K., Hosono, T. and Yokoo, Y. 2005 "Source and evolution of the perfect Asian dust storm in early April 2001: implications of the Sr-Nd isotope ratios" *Atmospheric Environment*, 39:5568-5575.
- Nakano, T., Tayasu, I., Wada, E., Igeta, A., Hyodo, F. and Miura, Y. 2005 "Sulfur and strontium isotope geochemistry of tributary rivers of Lake Biwa: implications for human impact on the decadal change of lake water quality" *Science of the Total Environment*, 345: 1-12.
- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Nishino, M., Wada, E. and et. al 2006 "Biodiversity of Lake Biwa: New discoveries and future potential" *Journal Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9:61.
- Yamanaka, M., Nakano, T. and Tase, N. 2005 "Hydrogeochemical evolution of confined groundwater in northeastern Osaka Basin, Japan: estimation of confined groundwater flux based on a cation exchange mass balance method" *Applied Geochemistry*, 20:295-316.

プロジェクト3-1ワーキングペーパー・シリーズ

総合地球環境学研究所プロジェクト3-1事務局発行

1) 和文シリーズ

- 2003 和田英太郎
「自然界の物質循環を探る：安定同位体が語る地球環境」. J-1
- 2004 谷内茂雄
「『琵琶湖－淀川水系における流域管理モデルの構築(P3-1)』がめざすもの－全体構想－」. J-3
- 2004 田中拓弥
「東南アジア流域スタディツアー報告」. J-7
- 2004 斎藤暖生・三俣学・田中拓弥
「信濃川流域における大規模水力発電と地域住民－くらしを潤す水のゆくえ－」. J-9
- 2004 田中拓弥
「『琵琶湖－淀川水系における流域管理モデルの構築』のグランドデザイン－プロジェクトを進めるロードマップの試案として－」. J-10
- 2004 大野智彦・嶋田大作・三俣学・市田行信・太田隆之・清水万由子・須田あゆみ・礪波亜希・鷺野暁子
「社会関係資本に関する主要先行研究の概要とその位置づけ－概念整理と流域管理への示唆－」. J-11
- 2004 和田英太郎
「生物界における $\delta^{15}\text{N}$, $\delta^{13}\text{C}$ の分布－その40年史」. 特別号
- 2005 和田英太郎・山田佳裕・陀安一郎・中野孝教・井桁明丈・Narin Boontanon・田中拓弥・谷内茂雄
「琵琶湖－淀川水系の診断法－流入小河川の重要性について」. J-12
- 2005 田中拓弥・今田美穂・三俣学・大野智彦
「水辺のみらいワークショップ報告書－流域管理における階層間コミュニケーションに向けた水環境情報構築の試み」. J-13
- 2005 野波寛・加藤潤三
「農家を対象とした環境配慮型農作業の普及プログラム－琵琶湖沿岸における農業濁水削減の試み」. J-14
- 2006 柏尾珠紀
「稲枝地域の農業構造変化と担い手の可能性－農業センサス分析からみた地域農業の変化と農政」. J-15
- 2006 今田美穂
「彦根市稲枝地区における水路掃除実態調査」. J-16
- 2006 田中拓弥・坂上雅治・大野智彦
「身近な水辺とその保全に関する意識調査報告書」. J-17

2) 英文シリーズ

- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Behavior of nutrient salts in paddy waters.’ Project 3-1 Working Paper No.1.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Nitrification and denitrification.’ Project 3-1 Working Paper No.2.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Methane formation in waterlogged paddy soils and its controlling factors.’ Project 3-1 Working Paper No.3.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Natural abundance of $\delta^{15}\text{N}$ and $\delta^{13}\text{C}$ in soil organic matter with special reference to paddy ecosystems in Japan.’ Project 3-1 Working Paper No.4.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Intramolecular stable isotope ratios of dissolved N_2O in several aquatic ecosystems.’ Project 3-1 Working Paper No.5-1.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Radiatively active gases in the Hebisuna River and Lake Nishinoko.’ Project 3-1 Working Paper No.5-2.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Nutrient dynamic in Lake Biwa with emphasis on intramolecular stable isotope ratio of N_2O .’ Project 3-1 Working Paper No.6.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Stable isotopes in the biosphere and its significances.’ Project 3-1 Working Paper No.7.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Natural isotopic composition of organic nitrogen with emphasis on anthropogenic loading to the river ecosystems.’ Project 3-1 Working Paper No.8.
- 2003 Material Cyclings Working Group ‘Interface between matter cyclings and human dimensions.’ Project 3-1 Working Paper No.9.
- 2003 Social & Culture System Working Group ‘Making a factor diagram in the Biwako-Yodo river basin: a collaborative method for finding basin-specific factors towards consensus-building.’ Project 3-1 Working Paper No.10.
- 2005 Stephen Carpenter and Yachi Shigeo (eds.) “Report from the workshop: Regime shifts and thresholds in Lake Ecosystems by Stephen Carpenter (2004.10.27, Kyoto)”. Project 3-1 Working Paper No.12.

プロジェクト3-1事務局発行報告書

総合地球環境学研究所プロジェクト3-1事務局発行

- 2005 『国際ワークショップ報告書 分野横断による新たな流域管理システムの構築に向けてー流域の空間スケールとステークホルダーの階層の違いを踏まえてー』
- 2005 杉本隆成・谷内茂雄・国土環境株式会社
『琵琶湖・淀川・大阪湾における水質・負荷量に関する総合レポート』
- 2006 谷内茂雄・田中拓弥・杉本隆成・国土環境株式会社
『水質・流入負荷から見た淀川下流域の問題構造』
- 2006 『コメントワークショップ報告書』
- 2006 『国際ワークショップ報告書 琵琶湖の流域管理から始める地球環境学』
- 2006 『ヒューマンインパクトセミナー報告書』

地域や市民に向けた講演

2004年8月20日

谷内茂雄・中野孝教・田中拓弥・今田美穂 「琵琶湖の水環境を守るにはー淀川の上流・琵琶湖流域での研究活動からー」 シニア自然大学森林文化研究科 オープン講演会 大阪市

2004年9月8日

谷内茂雄・中野孝教・脇田健一・今田美穂 「琵琶湖ー淀川水系における流域管理モデルの構築」 水資源機構 琵琶湖開発総合管理所 大津市

2004年12月3日

谷内茂雄・中野孝教 第2回地球研市民フォーラム「琵琶湖の水環境を守るにはー琵琶湖流域での研究活動からー」 京都市

2005年3月10日

谷内茂雄・中野孝教・脇田健一「琵琶湖ー淀川水系における流域管理モデルの構築」 農業濁水問題研究会 滋賀県彦根市

2006年9月9日

中野孝教・谷内茂雄「赤野井地域の河川水の水質マップ」 NPO法人びわこ豊稷の郷 調査改善活動部会 水質調査委員会 水環境サロン2006年第3回会合 滋賀県守山市

新聞記事

2004年5月20日

「研究最前線21拠点編 総合地球環境学研究所 未来生きる方法、伝えたい（プロジェクトの紹介）」 京都新聞朝刊

2006年7月29日

中野孝教「地球研京都発10 資源輸入大国の気になる『健康状態』」 毎日新聞朝刊

2006年8月5日

谷内茂雄「地球研京都発11 流域管理の方法論：模索続く琵琶湖の農業濁水」 毎日新聞朝刊

2006年10月28日

中野孝教「地球研京都発23 廃鉱山の枯れ葉に学ぶ：広がる東アジアの複合大気汚染」 毎日新聞朝刊

2007年2月17日

田中拓弥「地球研京都発35 河川の環境を『話し合う場』：流域全体を俯瞰する視点で」 毎日新聞朝刊

地球研ニュースレター

谷内茂雄 「なぜ階層性に着目することが大切なのか」(2006) Humanity & Nature Newsletter 3, 4-5.

京都大学生態学研究センターニュース

谷内茂雄 「センターのプロジェクト紹介 琵琶湖ー淀川水系における流域管理モデルの構築」(2006) センターニュース 94, 11-12.

陀安一郎 「センター員の研究紹介 同位体生態学からの視点」(2006) センターニュース 91, 15-16.

ヒューマンインパクトセミナー

◆1年目：2002年度（平成14年度）

オーガナイザー：谷内茂雄（総合地球環境学研究所）、永田俊・山村則男・三木健（京都大学生態学研究センター）

第1回 2002年6月14日

三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館流域生態研究グループ）
「博物館と自然環境情報—自然史研究から地域生態系保全へ—」

第2回 6月28日

佐藤 仁（東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻国際環境基盤学講座）
「タイの森林保全にみる政策と情報」

第3回 7月26日

原 雄一（パシフィックコンサルタンツ株式会社水工技術本部流域情報部）
「コンサルタントにおける流域での諸問題検討の流れ—流域管理の実践的展開について—」

第4回 9月27日

藤倉 良（立命館大学経済学部）
「生物多様性保全の意義—あらゆる人たちが理解できる説明の必要性—」

第5回 10月11日

内藤正明（京都大学大学院工学研究科（環境地球工学）同大学院地球環境学堂学舎長（併任））
「持続可能な社会システム—自然共生型文明への転換？—」

第6回 11月8日

大西正幸（名桜大学国際学部国際文化学科）
「『危機言語』の記録と継承に向けての取り組み—南ブーゲンヴィルのパプア系諸語を例に—」

第7回 12月13日（金）

琵琶湖スペシャル

戸田直弘（滋賀県守山漁協）
「漁業者の目から見た外来魚問題」
中井克樹（琵琶湖博物館）
「琵琶湖における侵害的外来魚の現状と対処—既存データでどこまで言えるのか？—」

第8回 2003年1月24日（金）

内山純蔵（富山大学人文学部）
「永遠のトラブルメーカー？—長期的視点からの人間・環境系—」

京都大学生態学研究センター共同利用公募研究会

2003年3月14日～15日

「生態系デザイン方法論をめぐって」

世話人 永田俊、企画 ヒューマンインパクトセミナー幹事（山村則男、永田俊、谷内茂雄、三木健）

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）「流域管理の方法論をめぐって」

菊澤喜八郎（京都大学大学院農学研究科）「森林保全と生態学」

三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）「理論と実践のリンク—地図の上で展開する生態学—」

コメンテータ：原雄一（パシフィックコンサルタンツ株式会社）、竹門康弘（京都大学防災研究所）

柿澤宏昭（北海道大学大学院農学研究科）、武田博清（京都大学大学院農学研究科）

畑田彩（京都大学生態学研究センター）、内山純蔵（富山大学人文学部）

藤倉良（立命館大学経済学部）、松田裕之（東京大学海洋研究所）

中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）

◆2年目：2003年度（平成15年度）

オーガナイザー：谷内茂雄（総合地球環境学研究所）、永田俊・山村則男・三木健（京都大学生態学研究センター）

第9回 5月9日

竹門康弘（京都大学防災研究所水資源研究センター）

「砂洲の生態系機能に関する研究」

第10回 6月6日

中村浩二（金沢大学自然計測応用研究センター・理学部（兼務））

「里山・地域・大学—金沢大学「角間の里山自然学校」の試み—」

第11回 11月28日

五十嵐敬喜（法政大学法学部）

「美しい都市」

第12回 2004年1月23日

横山俊夫（京都大学大学院三才学林・地球文明論）

「安定社会を生きる—前近代日本の経験から—」

第13回 2月13日 小倉紀雄（東京農工大学）

「市民環境科学について考える—水環境保全に果す市民と専門家の役割—」

◆3年目：2004年度（平成16年度）

オーガナイザー：谷内茂雄・石井励一郎（総合地球環境学研究所）、永田俊・山村則男・三木健（京都大学生態学研究センター）

第14回 2004年9月16日

吉田昭彦（株式会社こめつつじ）

「治山・治水と河川水生生態系再生のあり方について」

第15回～第17回までは「琵琶湖は持続可能か？」シリーズ

第15回 2004年10月22日

嘉田由紀子（京都精華大学人文学部環境社会学科）

「水利用と湖岸の開発—環境社会学の立場から—」

野崎健太郎（椋山女学園大学人間関係学部人間関係学科）

「琵琶湖北湖における植物プランクトンおよび底生藻群落の変遷」

第16回 2004年11月26日

須戸幹（滋賀県立大学環境科学部）

「農業活動が琵琶湖集水域の水質に与える影響、特に代かき濁水と農薬について」

濱端悦治（滋賀県琵琶湖研究所）

「琵琶湖岸における植物群落の変化とその要因」

第17回 2005年1月20日

渡邊紹裕（総合地球環境学研究所）

「琵琶湖集水域における近年の農業水利システムの展開」

遊磨正秀（京都大学生態学研究センター）

「淡水環境の変遷と淡水生物の応答—琵琶湖周辺を事例に—」

ヒューマンインパクトセミナー・スペシャル（京都大学生態学研究センターセミナーと共催）

2004年10月28日

Stephen R. Carpenter (Center for Limnology, and Department of Zoology, University of Wisconsin-Madison, USA)

"Carbon Cycling in Lake Districts: Terrestrial Subsidies to Lakes"

ヒューマンインパクトセミナー 編纂会議

2006年7月14日

「琵琶湖は持続可能か」

司会：石井励一郎（地球環境フロンティア研究センター）
中西正己（元総合地球環境学研究所）、仁連孝昭（滋賀県立大学環境科学部）
和田英太郎（地球環境フロンティア研究センター）、谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

足下を鍛えるセミナー

司会：脇田健一（龍谷大学社会学部）

第1回 2002年11月29日

野波寛（関西学院大学社会学部）

「環境配慮行動に対する個人の意思決定過程から概観する社会構造変化の可能性」

第2回 2002年12月26日

今田美穂（総合地球環境学研究所）

「流れる水を使う井堰管理と協働性の変遷—湖北・天野川下流域における集落の比較分析から—」

第3回 2002年2月14日

山崎有恒（立命館大学文学部）

「明治期における水利・土木政策と、昭和・平成の河川行政におけるその影響」

第4回 2003年3月28日

首藤伸夫（岩手県立大学総合政策学部）

「極低頻度の巨大自然災害への備え」

第5回 2003年3月29日

長谷川計二（関西学院大学総合政策学部）

「社会的ジレンマと制度デザイン—コミュニティ・市場・国家—」

第6回 2004年11月12日

東善広（滋賀県琵琶湖研究所）

「情報システムと住民参加・参画—豊穡の郷 赤野井湾流域協議会の取組みを事例に—」

第7回 2004年12月10日

増田佳昭（滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科）

「農業排水問題の構造と対策—農業濁水問題研究会の取組みを中心に—」

第8回 2005年1月14日

宮本博司（国土交通省近畿地方整備局）

「淀川河川整備計画策定と洪水対応について」

第9回 2005年4月25日

柏尾珠紀（総合地球環境学研究所）

「土地改良事業導入における推進勢力構造と事業展開—旧三村の差異とキーパーソンを中心に—」

地域でのワークショップ

水辺のみらいワークショップ

第1回 2004年1月25日 滋賀県彦根市薩摩町

第2回 2004年2月8日 滋賀県彦根市新海町・田附町

第3回 2004年3月7日 滋賀県彦根市稲里町

農業と水環境に関するワークショップ

第1回 2005年3月23日 滋賀県彦根市甲崎町

第2回 2005年3月24日 滋賀県彦根市稲里町

第3回 2005年3月26日 滋賀県彦根市薩摩町

第4回 2005年4月2日 滋賀県彦根市普光寺町

第5回 2005年4月3日 滋賀県彦根市柳川町

第6回 2005年4月10日 滋賀県彦根市下西川町

いなえ水辺環境学サロン

2006年8月5日～6日 滋賀県彦根市みずは文化センター

展示『いなえの水辺の環境学—ポスター・写真・ビデオ上映』、シナリオ君（GISソフト）の実演
ミニ講演リレー『いなえの水辺と琵琶湖』

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）「地球研・琵琶湖—淀川プロジェクトの紹介」

田中拓弥（総合地球環境学研究所）「稲枝で見た流域の水利用」

石井励一郎（地球環境フロンティア研究センター）「水でつながる稲枝と琵琶湖の生態系」

山田佳裕（香川大学農学部）「水辺環境に及ぼす水田管理の影響」

中野孝教（総合地球環境学研究所）「湖東の水が琵琶湖をかえる」

脇田健一（龍谷大学社会学部）「琵琶湖と稲枝の地域づくり」

国際ワークショップ

2003年12月1日～2日、京都市・芝蘭会館

『分野横断による新たな流域管理システムの構築に向けて—流域の空間スケールとステークホルダーの階層の違いを踏まえて—』

“Seeking an effective watershed management system through interdisciplinary approach”

-considering multiple spatial scales and stakeholders-

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

「琵琶湖—淀川水系における流域管理モデルの構築：『階層化された流域管理システム』という考え方を
中心に」

田中拓弥（総合地球環境学研究所）

「琵琶湖—淀川水系における流域管理モデルの構築：流域管理の指標選択と階層間の調整を支援する現場
から」

田中耕司（京都大学東南アジア研究センター）

「国際河川メコン河の空間スケールと流域管理の階層性—ラオス・ベトナムでの調査から—」

井上真（東京大学大学院農学生命科学研究科）

「東カリマントンにおける森林の協治」

Roger Lewins（水産資源コンサルタント、英国）

“Consensus building for better local natural resource management in Bangladesh-prospects for horizontal
and vertical expansion.”

広瀬幸雄（名古屋大学環境学研究科）

「環境管理計画への市民参加とその規定因としてのエンパワーメント」

和田英太郎（総合地球環境学研究所）

「物質循環と人間活動のインターフェーズについて」

Jan Hassing（GWP Resource Center, DHI, デンマーク）

“On using ToolBox for River Basin Management”

コメンテータ：天野耕二（立命館大学工学部）、飯沼佐代子（現アジア太平洋資料センター）

小倉紀雄（東京農工大学名誉教授）、柿澤宏昭（北海道大学大学院農学研究科）

岸 由二（慶応義塾大学経済学部）、陀安一郎（京都大学生態学研究センター）

原 雄一（パシフィックコンサルタンツ株式会社）、三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）

森井源蔵（滋賀県湖南地域振興局環境農政部田園整備課）

脇田健一（岩手県立大学総合政策学部）、渡邊紹裕（総合地球環境学研究所）

2004年10月27日、京都市・芝蘭会館別館

“Regime shifts in lake ecosystems -seeking an effective interdisciplinary methodology for lake ecosystem
diagnosis and management-.”

Stephen Carpenter（Center for Limnology, University of Wisconsin）

“Regime shifts and thresholds in lake ecosystems”

加藤元海（京都大学生態学研究センター）

“Eutrophication due to phosphorus recycling in relation to lake morphometry, temperature and macrophytes”

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

“Multi-disciplinary research for understanding interactions between humans and nature in the Lake Biwa-Yodo River watershed-an overview-”

陀安一郎（京都大学生態学研究センター）

“An environmental diagnosis on watershed ecosystems based on stable isotope ratios”

永田俊（京都大学生態学研究センター）

“Hipolimnetic dissolved oxygen in Lake Biwa- spatio- temporal variations and microbial controls-”

石井励一郎（総合地球環境学研究所）

“Effects of anthropological impacts on lake ecosystems -modeling approach-”

2006年9月23日～24日、京都市・総合地球環境学研究所

『琵琶湖の流域管理から始める地球環境学』

“Hierarchical watershed management for creation of a watershed as a public space
-a research integration challenge on the Lake Biwa agricultural drainage problem-”

脇田健一（龍谷大学社会学部）

「基本コンセプトと濁水問題の社会的背景の解明」

中野孝教（総合地球環境学研究所）

「湖－川－人をつなぐ環境指標の開発と流域診断」

加藤潤三（大阪国際大学人間科学部）

「アクション・リサーチによる濁水削減行動の促進」

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

「階層間コミュニケーション促進のためのシナリオアプローチの試み」

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

「水質・流入負荷から見た淀川下流域の問題構造」

原雄一（京都学園大学バイオ環境学部）

「階層性を軸とした多様な流域課題への適用性」

コメンテータ：東 善広（滋賀県・琵琶湖環境科学研究センター）、天野耕二（立命館大学理工学部）

柿澤宏昭（北海道大学大学院農学研究科）、鈴木力英（地球環境フロンティア研究センター）

西川宗右衛門（水土里ネット愛西）、仁連孝昭（滋賀県立大学環境科学部）

野波 寛（関西学院大学社会学部）、松村真三（滋賀県農政水産部農村振興課）

山田一裕（岩手県立大学総合政策学部）、山仲善彰（滋賀県知事公室長）

渡邊紹裕（総合地球環境学研究所）、Roger Lewins（自然資源管理コンサルタント、英国）

淀川下流域関連ワークショップ

2004年11月13日、京都市・総合地球環境学研究所

『淀川下流・河口域の栄養塩収支』ミニワークショップ

司会：杉本隆成（東海大学海洋研究所・総合地球環境学研究所）

永田俊（京都大学生態学研究センター）

「湖沼・河川・河口域におけるリンの挙動」

佐々倉諭・泉伸司（国土環境株式会社大阪支店）

「大阪湾奥部に対する陸からのN、P負荷量」

中本信忠（信州大学繊維学部）

「河川の栄養塩浄化機能」

柳哲雄（九州大学応用力学研究所）

「大阪湾奥部の栄養塩収支と赤潮・貧酸素水塊形成」

藤原建紀（京都大学農学研究科）

「大阪湾のエスチュアリー循環流と物質輸送・貧酸素水塊形成」

コメンテータ：日下部敬之・森正次（大阪府立水産試験場）

谷内茂雄・中野孝教・田中拓弥（総合地球環境学研究所）他

2005年10月9日、京都市・総合地球環境学研究所

『淀川下流域とりまとめワークショップ』

佐々倉諭・石野哲（国土環境株式会社）

基調講演「淀川下流域～大阪湾の水質に関する重要課題について」

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

「淀川下流域のとりまとめ具体案」

2006年9月24日、京都市・総合地球環境学研究所

『淀川下流域～大阪湾の環境再生方策』ミニワークショップ

中辻啓二（大阪大学工学部）

「大阪湾における汚濁負荷量の裁量規制施策が水質保全に与えた影響」

有山啓之（大阪府立水産試験場）

「淀川河口域の役割—大型底生動物を中心として—」

出口一郎（大阪大学工学部）

「大阪湾沿岸域におけるアマモ場と岩礁性藻場の造成」

佐々倉諭・石野哲（いであ株式会社環境コンサルタント部）

「大阪湾再生会議と行政の動向」

コメンテータ：藤原建紀（京都大学農学研究科）、城久（いであ株式会社・元大阪府水産試験場）

杉本隆成（総合地球環境学研究所）

その他全体ワークショップ

コメントワークショップ

2006年5月17日、総合地球環境学研究所講演室

コメンテータ：加賀昭和（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）

船橋晴俊（法政大学社会学部）

川端善一郎（総合地球環境学研究所）

GISワークショップ

第1回 2004年2月21日～22日 総合地球環境学研究所

講師：三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）、丹羽英之（株式会社総合計画機構）、

伊勢 紀（京都大学大学院地球環境学舎）

第2回 2004年10月10日 総合地球環境学研究所

講師：三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）、丹羽英之（株式会社総合計画機構）

伊勢 紀（京都大学大学院地球環境学舎）、伊藤益義（エコグループ武庫川代表）

石原康宏（兵庫県立人と自然の博物館、NPO法人地域自然情報ネットワーク）

GISシナリオワークショップ

2006年6月24日 総合地球環境学研究所

講師：三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）、丹羽英之（株式会社総合計画機構）

伊勢 紀（株式会社地域環境計画）

執筆者一覧

執筆者名	現 職	執筆担当章
井桁 明丈	総合地球環境学研究所	第2編2章1節3.2、3.3、5.6、5.7
石井 励一郎	海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター	第2編2章1節3.7、5章2節
今田 美穂	国立環境研究所	第2編3章2節
大野 智彦	京都大学大学院地球環境学舎	第2編5章5節、第3編1章1節
柏尾 珠紀	総合地球環境学研究所	第2編2章2節1、第3編1章5節
加藤 潤三	大阪国際大学人間科学部	第2編4章1節
加藤 元海	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	第2編1章3節
高津 文人	独立行政法人科学技術振興機構	第2編2章1節4.2、4.3、4.4
坂上 雅治	日本福祉大学情報社会科学部	第2編2章2節3
杉本 隆成	東海大学海洋研究所	第2編6章4節
田中 拓弥	総合地球環境学研究所	第2編3章1節、3節、4節、4章2節、 6章2節、第3編1章3節、4節
陀安 一郎	京都大学生態学研究センター	第2編2章1節1、5.1、5.2、 第3編1章2節
中野 孝教	総合地球環境学研究所	第2編2章1節3.8、4.1
成田 哲也	元 京都大学生態学研究センター	第2編2章1節2.3、5.5
原 雄一	京都学園大学バイオ環境学部	第3編2章2節
兵藤 不二夫	総合地球環境学研究所	第2編2章1節5.4、5.8
プリマ オキ ディッキ	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	第2編5章4節
細野 高啓	総合地球環境学研究所	第2編2章1節2.4、3.6
谷内 茂雄	総合地球環境学研究所	第1編1章1節、3節、4節、2章、 5章1節、3節、6章1節、3節、 5節、第3編2章1節、3節
山田 佳裕	香川大学農学部	第2編1章1節、2章1節2.1、2.2、 3.1、3.4、4.5、4.6
脇田 健一	龍谷大学社会学部	第1編1章2節、3章、 第2編1章2節
和田 英太郎	海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター	第2編2章1節3.5、5.3
Tamara V. Khantashkeeva	Institute of Geography, Russian Academy of Sciences, Moscow, Russian Federation ロシア科学アカデミー地理学研究所	第2編2章2節2